



女子団体決勝 花北青雲-前沢 第1ダブルスでスマッシュを次々打ち込み逆転勝ちした花北青雲の藤井愛（右）、金野夕香組=関市総合体育館



女子団体の3連覇を果たした花北青雲

花北青雲女子3連覇 前沢、男子団体制す

バドミントン		（関市総合体育館）	
田軽	吉小	三野	田軽
村石	田原	瑞貴	直人
2	2	2	2
2121	0	0	0
1617	0	0	0
0	0	0	0
三野	菊村	吉小	前沢
浦田	地上	高橋	内
花北青雲	高橋	龍神	久慈
3	2	2	2
1	21117	2	2
1	161221	0	0
1	1	1	1
中	家	久慈	長
家	家	家	家
新	太田	新	太田
沼	沼	沼	沼
2	2	2	2
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
村	村	村	村
東	東	東	東
田	田	田	田
0	0	0	0
新	東	東	東
沼	沼	沼	沼
2	2	2	2
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
村	村	村	村
東	東	東	東
田	田	田	田
0	0	0	0

1点への執念実る 花北青雲

3年連続の同一カードとなった女子団体決勝はエースペア対決を制した花北青雲が前沢を破り、3連覇を果たした。

準決勝まで1ゲームも落とさなかったが、決勝はそうはいかなかった。3試合同時にスタートし、第1シングルの外川実空（3年）は「私が勝たないと」と1点1点積み上げストリート勝ちしたが、第2ダブルスは敗退。エース同士が顔を合わせた第1ダブルスが優勝の行方を左右する一戦となった。

藤井愛、金野夕香組（同）は第1ゲームを落としたが、1年時からインターハイ出場の際が「このゲームを取れば行ける。絶対取る」と気合を込めて臨んだ第2ゲームは後半の連続得点で奪い返した。新人戦3冠の金燃える。

野とともにスマッシュを次々に決めて第3ゲームも取り、逆転勝ち。第2、第3シングルスにつなげた。

第2シングルスで突き放し、優勝を決めた藤井は喜んだ後、「ほっとした」と3連覇のプレッシャーから解放され、胸をなで下ろした。

3年連続のインターハイ出場を支えるのは「1点を積み重ね、目の前の試合に勝つ」練習だ。「1年から3年までバランスの取れた隙のない布陣」と評した菊地亨監督は「よく戦った。結果が出た」とたたえた。

インターハイの目標はベスト8。選手たちは次のステージに燃える。

バドミントン		（関市総合体育館）	
田軽	吉小	三野	田軽
村石	田原	瑞貴	直人
2	2	2	2
2121	0	0	0
1617	0	0	0
0	0	0	0
三野	菊村	吉小	前沢
浦田	地上	高橋	内
花北青雲	高橋	龍神	久慈
3	2	2	2
1	21117	2	2
1	161221	0	0
1	1	1	1
中	家	久慈	長
家	家	家	家
新	太田	新	太田
沼	沼	沼	沼
2	2	2	2
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
村	村	村	村
東	東	東	東
田	田	田	田
0	0	0	0

（3年）の奮闘で前沢が3シングルスもゲームカウント2-1で制し、優勝を決めた。

2年前の決勝も第3シングルスを担ったがフルゲームの末、敗退。その悔しさを胸に常に第3シングルスを目指し鍛錬。

この日はこれまでの努力の成果を発揮し、最終ゲームに疲れが見えた相手に緩急をつけて攻め込み、21-12で圧倒した。

軽石は「1年時は気持ちに余裕がなかったが、

野瑞貴（バドミントン）花北青雲3年1主

（決勝で第2ダブルスで勝利。第3シングルスは惜敗）

今日はこれまでの練習が自信となり余裕を持てた。インターハイはベスト8を目指すと誓った。

野田瑞貴（バドミントン）花北青雲3年1主

（決勝で第2ダブルスで勝利。第3シングルスは惜敗）

今日はこれまでの練習が自信となり余裕を持てた。インターハイはベスト8を目指すと誓った。



野田瑞貴（バドミントン）花北青雲3年1主